

『女性労働研究』 執筆要領

一 執筆の形式

原稿は、ワードプロセッサを用いて和文を原則とする（横書き四〇文字×三〇行等、字数計算のしやすい書式でお願いします）。字数の指示は「執筆依頼」で行う。手書きの場合は、原稿用紙（縦書き）を使用する。

二 本文

- (1) 文体は、特に指示がない限り、「〜だ」、「〜である」調とする。
- (2) 見出しならびに小見出しの前後は、それぞれ一行ずつあけて原稿を作成する。
- (3) 本文中の引用文はカギカッコ（「」）で、引用文献は二重カッコ（『』）でくくる。
【例】『女性労働研究』の三二号によると、「新・日本の経営」とは
組織名等の略称を用いる場合は、初出に正式名称を用い、以下略称を用いることを明記する。
- (4)

【例】 都区関連一般労働組合（以下、都区一般と略す）

- (5) 注は、注をつけたい個所に算用数字を用いて、左記のように表記する。

【例】 『女性労働研究』によると①、

- (6) 本文中の引用文献、参考文献は、左記のように表記する。

【引用文献の例】

日本人の働き過ぎの思想的背景として、「和の思想」を抽出している〔本多淳亮 一九九六 五六頁〕。

【参考文献の例】

ブルムは、ペイ・エクイティ運動の持つラディカルな可能性 [Blum, Linda M. 1996] について指摘している。

三 数量・年号の表記

- (1) 数の表記は、和数字を並べ、区切りのコンマは入れない。大きな数字の場合にのみ、「億」「万」を使用する。また、「十」は用いない。
【例】 一二三〇人 四五億七二四五万人
- (2) パーセントは、記号の「%」を、それ以外の単位は片仮名を用いる。
- (3) 年号は、原則として西暦を用いるが、例外も可とする。

四 図および表

図および表等は、別紙に書き、標題を付けて、原図に刷り上がりの縦横の寸法を「」で記入する。また、本文原稿の欄外に、図表の挿入個所をわかりやすく指定する。図表の枚数・大きさは、依頼の枚数内に含めて計算する。

【図表の字数換算の目安】

本誌は一頁が「A五版」（A四の長辺の半分）の大きさとなる。一頁当たり約一一九〇字であるので、一頁使用の図表・大は一一九〇字、一頁の半分使用の図表・中は五九五字、一頁の四分の一使用の図表・小は、二九八字。

五 注、引用文献、参考文献の表記の方法

注、引用文献、参考文献は、本文末尾にまとめて、注、引用文献、参考文献の順に付記する。行頭は本文より一字下げる。注、引用文献、参考文献の字数も、本文と同一に計算し、原稿の枚数内に納める。

(1) 注の表記

【例】 (注)

(1) 一九七九年に発足したペイ・エクイティを推進する組織である。

(2)

引用文献、参考文献は和文献と外国文献に分け、アイウエオ順もしくはアルファベツト順に分けて、左記のような順序で表記する

☆和文献の場合

① 雑誌論文の場合：著者名 発行年 論文名 (「」でくくる) 雑誌名
『』でくくる) 巻号 引用頁

【例】 高島道枝 一九九六年 「イギリスの職務評価と同一価値労働同一賃金」
『女性労働研究』三〇号 五九頁

② 著書(編書)の場合：著者／編者名 発行年 書名 (『』でくくる)
出版社名 引用頁

【例】 本多淳亮 一九九六年 『企業社会と労働者』 大阪経済法科大学出版部

③ 翻訳書の場合：著者名 発行年 著書原題(イタリック表記) 出版社名
翻訳者名 発行年 翻訳書名 (『』でくくる) 出版社名 引用頁

【例】 Blum, Linda M. 1991 *Between Feminism and Labor*. The University of
California Press. 森ます美・居城舜子他訳 一九九六年
『フェミニズムと労働の間』 御茶の水書房

☆外国文献の場合

① 雑誌論文の場合：著者名 発行年 論文名 雑誌名 (イタリック表記)
Vol. No. 引用頁

【例】 Blum, Linda M. 1983 "Politics and Policy-Making," *Berkeley Journal*
of Sociology Vol. 1 No. 28 p. 25

② 著書(編書)の場合：著者／編者名 発行年 書名(イタリック表記)
出版社名 引用頁

【例】 Blum, Linda M. 1991 *Between Feminism and Labor*. The University of
California Press.